

ニチレイロジグループ

2024年度事業報告会

2025年5月19日

- 1. 企業概要**
- 2. 2025年3月期 決算概要**
- 3. 前中期経営計画（2022-2024）**
- 4. 新中期経営計画（2025-2027）**
- 5. 参考資料**

[組織体制]

(株)ニチレイロジグループ本社（持株会社）

子会社41社 関連会社8社

地域保管事業

(株)ニチレイ・ロジスティクス北海道

(株)ニチレイ・ロジスティクス東北

(株)キョクレイ

(株)ニチレイ・ロジスティクス東海

(株)ニチレイ・ロジスティクス関西

(株)ニチレイ・ロジスティクス中四国

(株)ニチレイ・ロジスティクス九州

物流ネットワーク事業

(3PL・運送・流通・加工)

(株)ロジスティクス・ネットワーク

(株)NKトランス

エンジニアリング事業

(株)ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリング

欧州事業

Nichirei Holding Holland B.V.

HIWA Rotterdam Port Cold Stores B.V.

Thermotraffic B.V.

Thermotraffic Ltd.

Admark Shipping Solutions Ltd.

Thermotraffic GmbH

Frigo Logistics Sp.z o.o.

Armir Logistyka Sp. z o.o.

Transports Godfroy S.A.S

Entrepots Godfroy S.A.S

海外事業

中国事業

日冷物流投資（上海）有限公司

上海鮮冷儲運有限公司

上海鮮榮運物流有限公司

江蘇鮮華物流有限公司

南京鮮華物流有限公司

浙江鮮一百物流有限公司

タイ事業

SCG Nichirei Logistics Co.,Ltd.

マレーシア事業

NL Cold Chain Network(M)Sdn.Bhd.

NL Litt Tatt Group Sdn.Bhd.

Litt Tatt Enterprise Sdn.Bhd.

Litt Tatt Distribution Sdn.Bhd.

ベトナム事業

Nichirei TBA Logistics Vietnam LLC

1. 企業概要
- 2. 2025年3月期 決算概要**
3. 前中期経営計画（2022-2024）
4. 新中期経営計画（2025-2027）
5. 参考資料

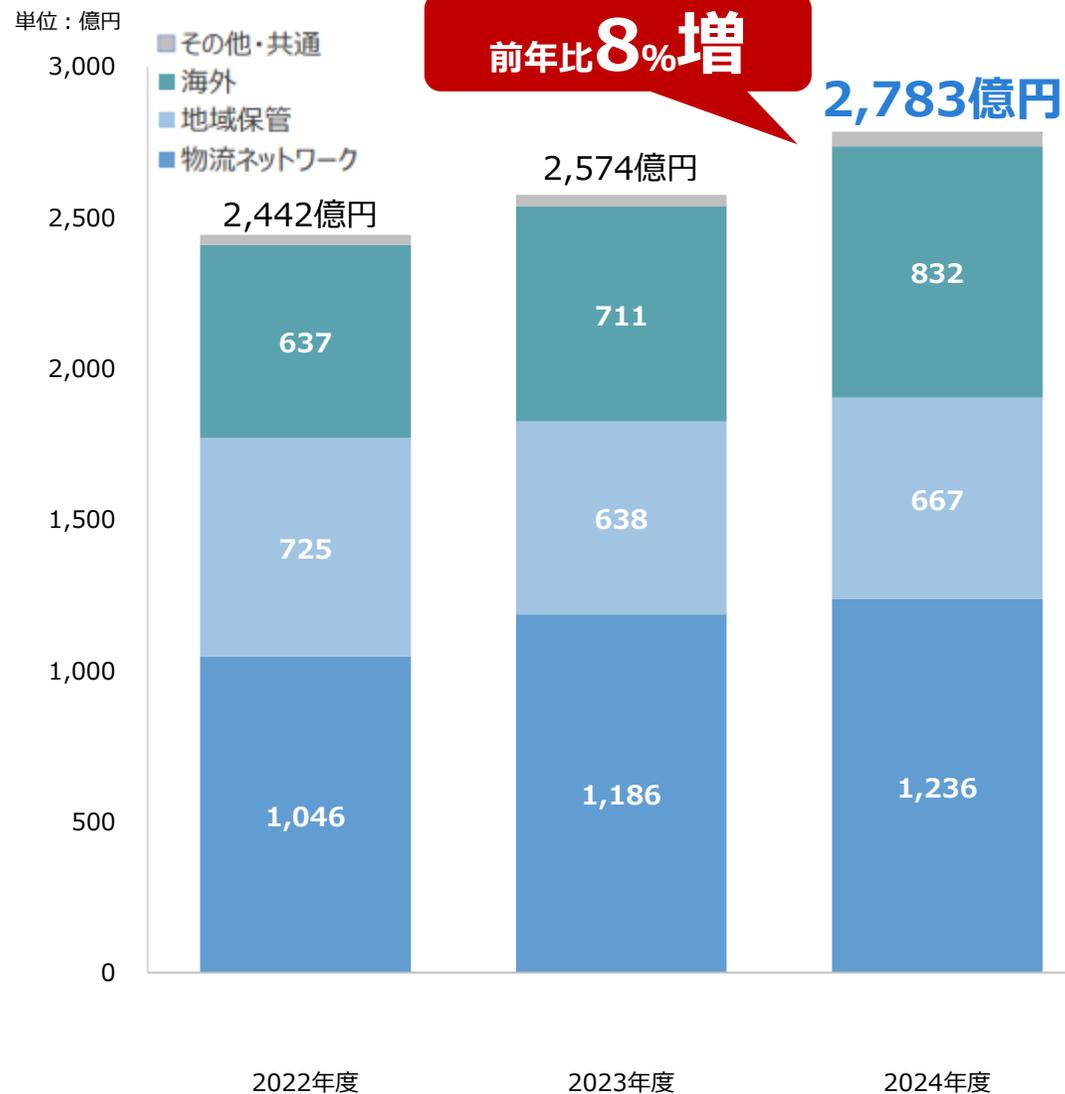
[ハイライト]

連結	国内・海外事業ともに増収もCSR対応等の一時的なコスト増が影響し減益		
	売上高	: 2,783億円	前年比 8%増
	営業利益	: 157億円	前年比 1%減
物流 ネットワーク 事業	持続可能な輸配送需要の取込と3PL事業における取扱い拡大により増益		
	売上高	: 1,236億円	前年比 4%増
	営業利益	: 68億円	前年比 5%増
地域保管 事業	在庫拠点分散ニーズへの対応と保管・輸配送一体による集荷拡大により増益		
	売上高	: 667億円	前年比 5%増
	営業利益	: 76億円	前年比 2%増
海外 事業	欧州・ASEANにおいて順調に事業成長も欧州CSR開示対応費用が嵩み減益		
	売上高	: 832億円	前年比 17%増
	営業利益	: 34億円	前年比 5%減

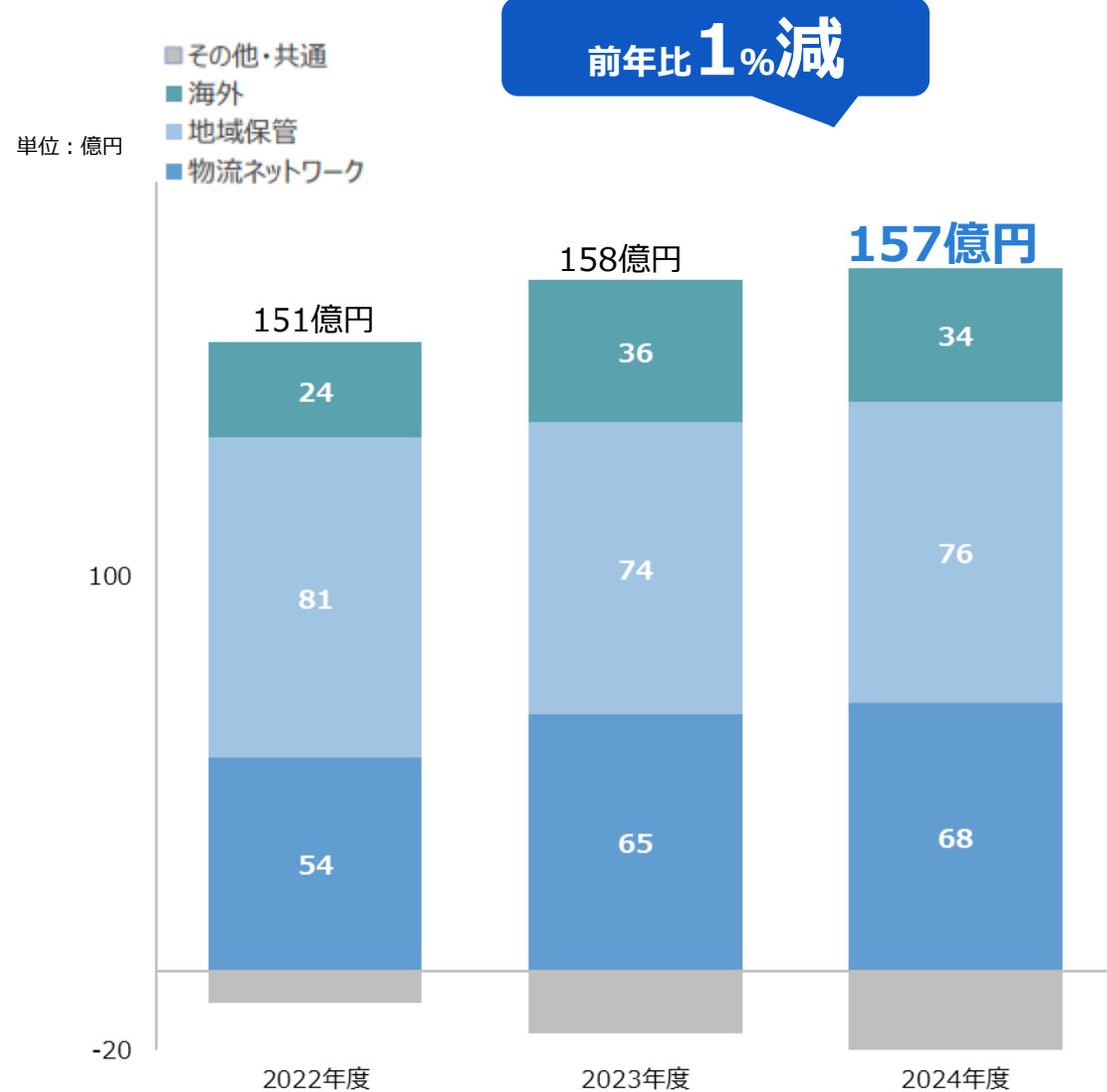
2. 2025年3月期 決算概要

[連結業績]

売上高推移

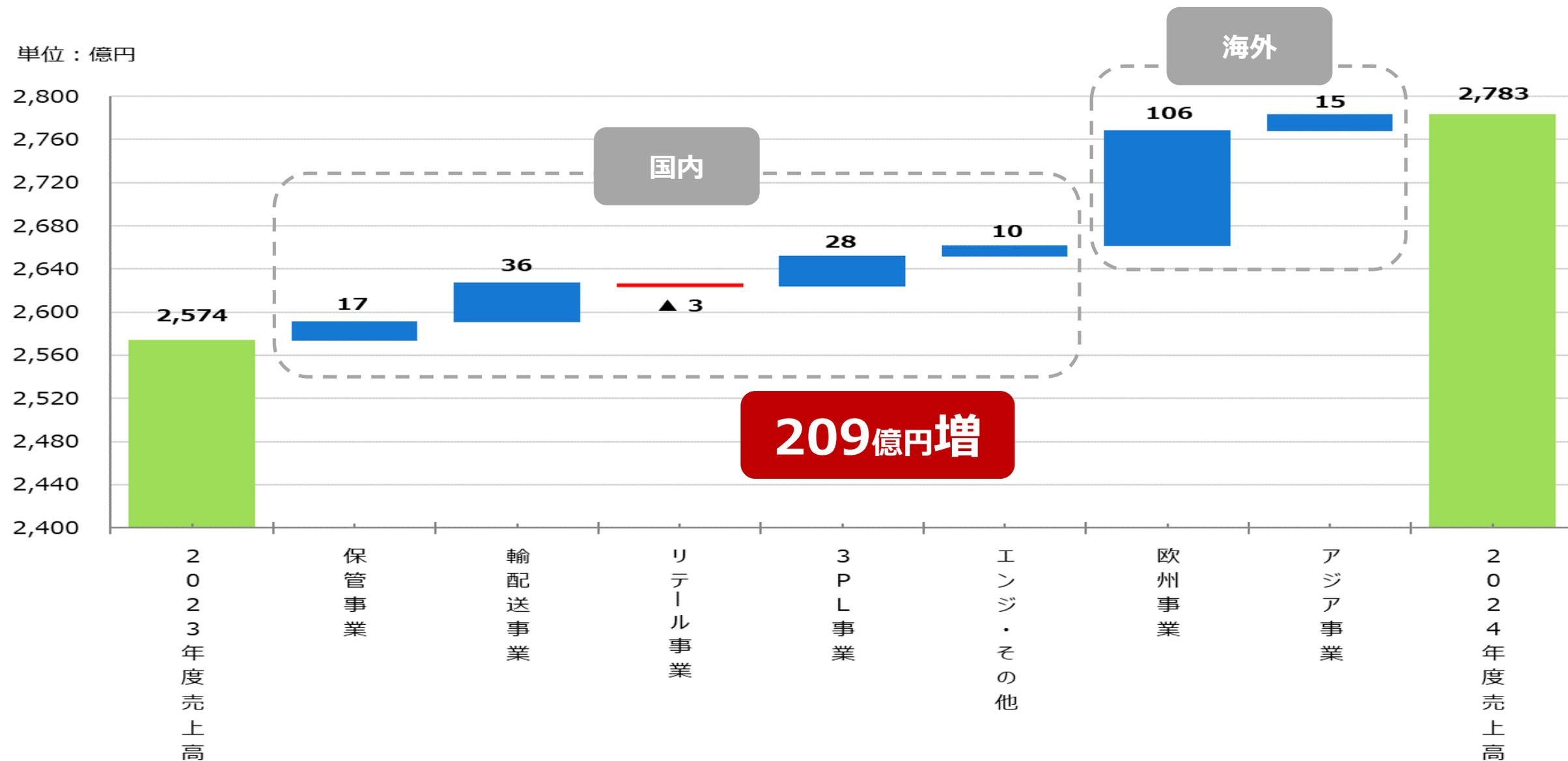


営業利益推移



2. 2025年3月期 決算概要

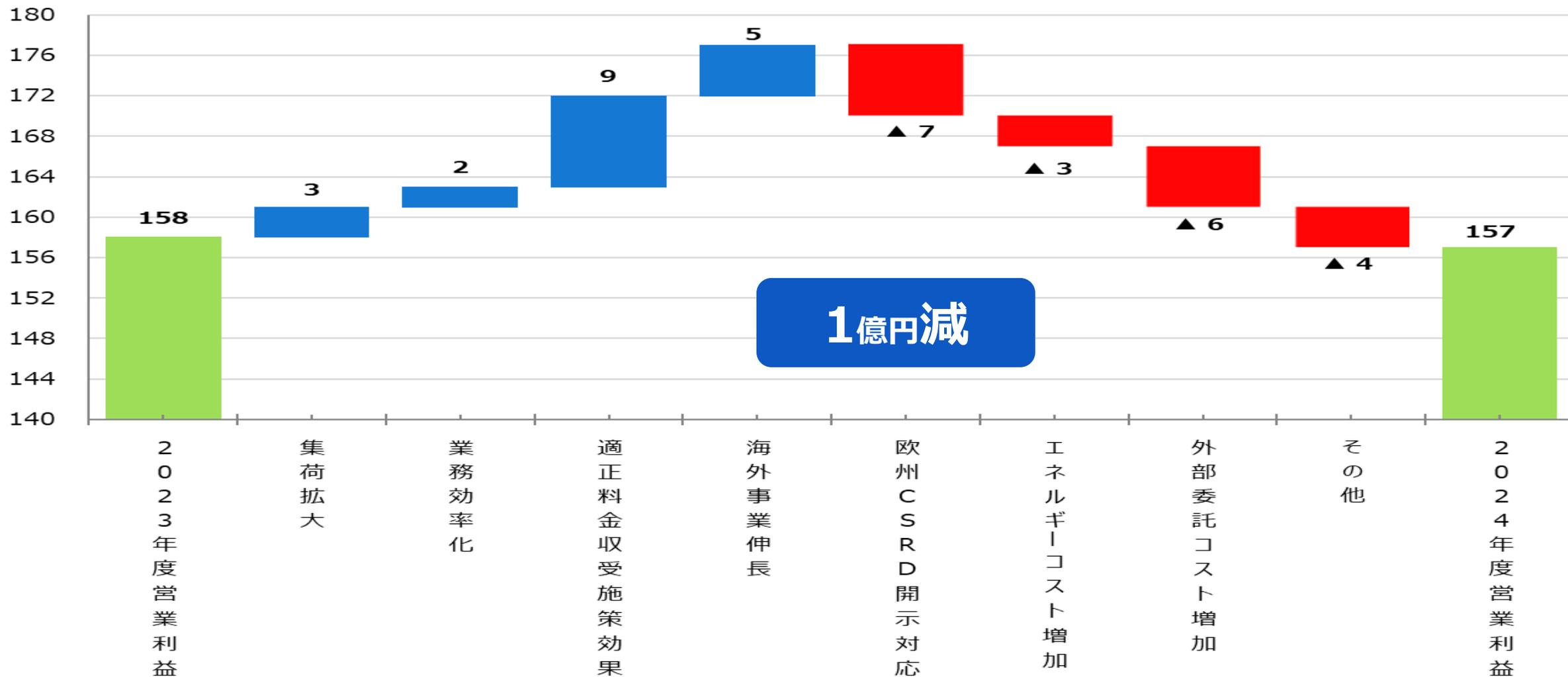
[連結：売上高の増減要因]



2. 2025年3月期 決算概要

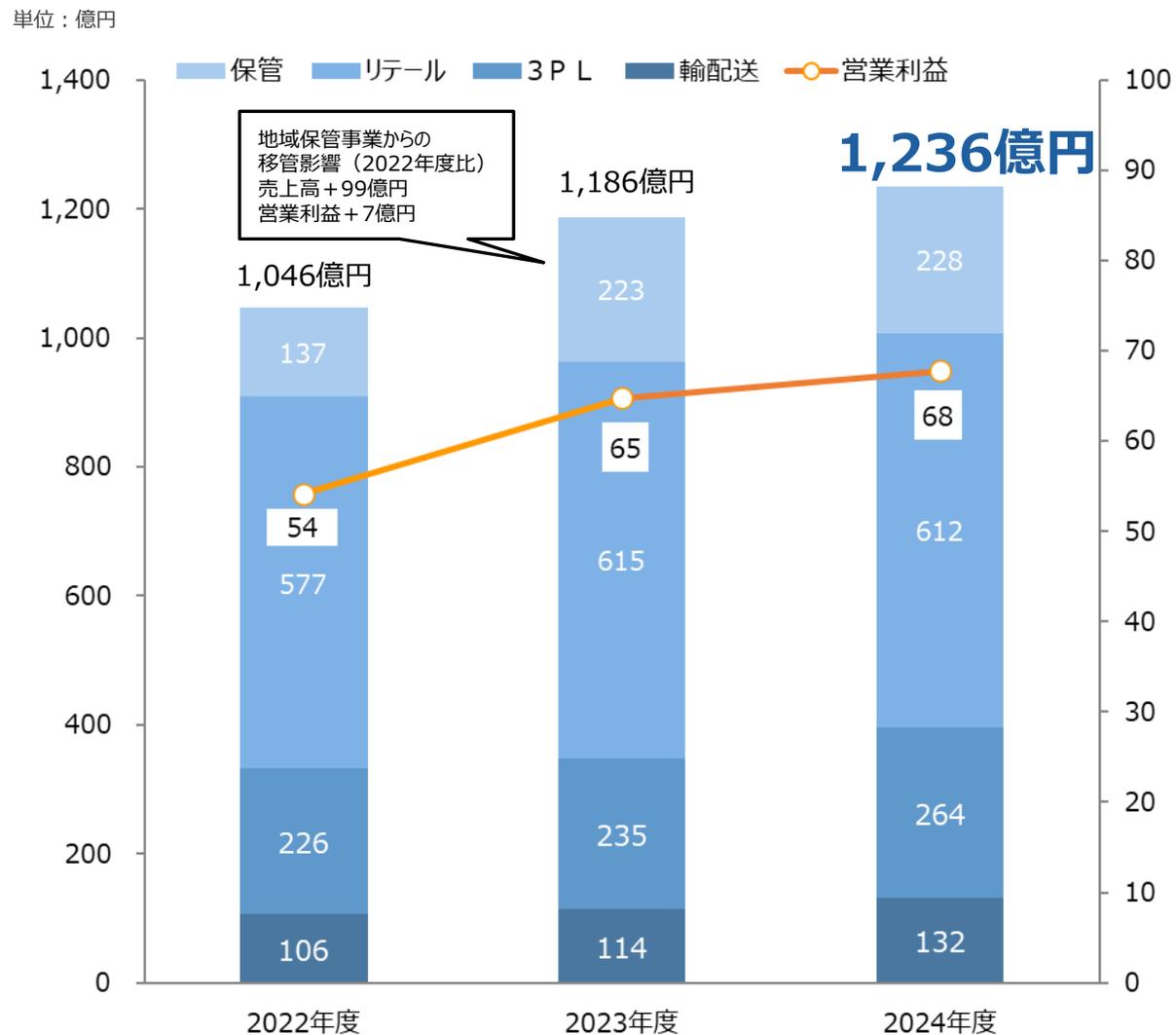
[連結：営業利益の増減要因]

単位：億円



[物流ネットワーク事業]

売上高・営業利益推移



トピックス

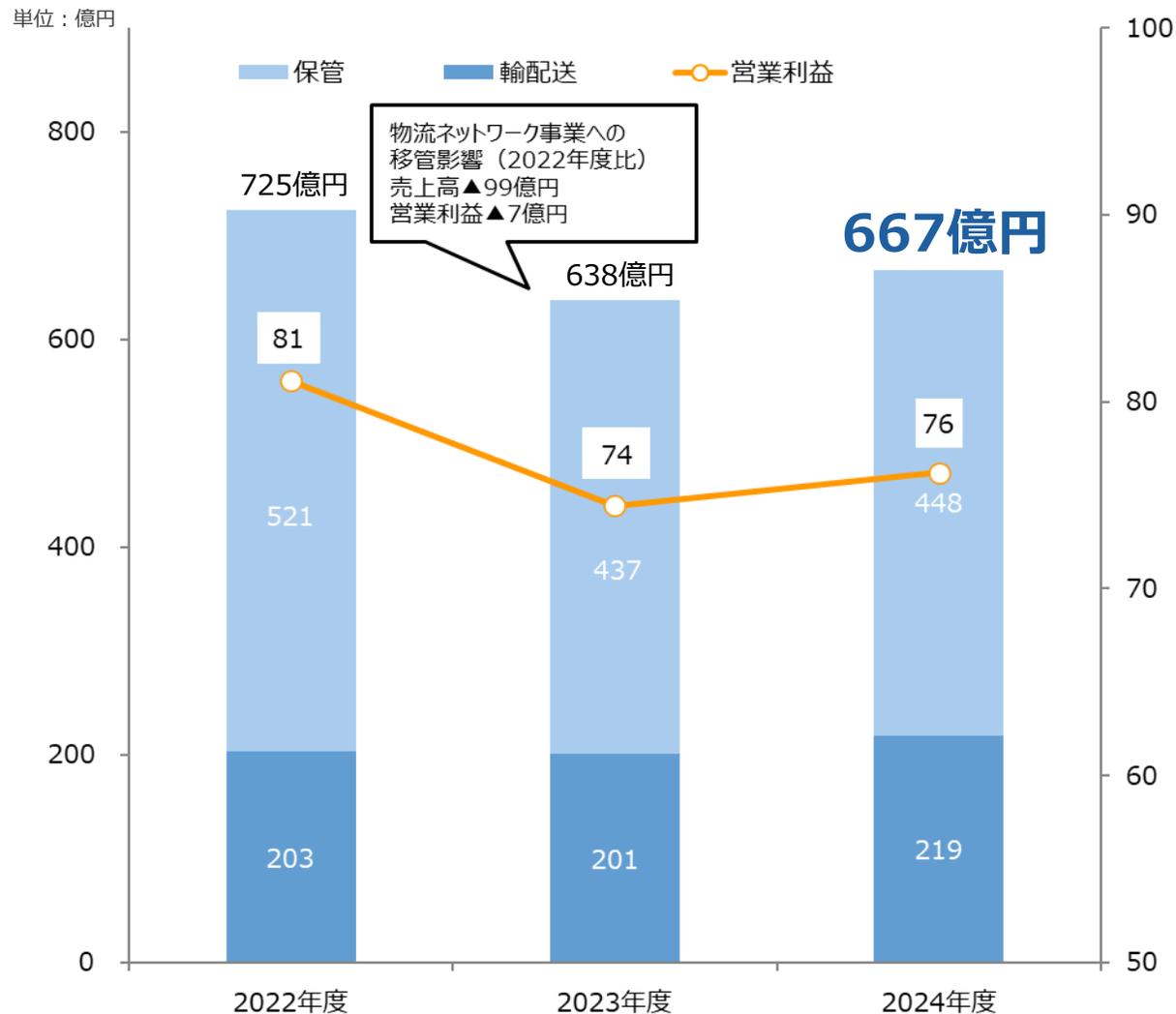
リテール事業は事業所閉鎖影響で減収となるも

3PL・輸配送事業が大きく伸長し増収増益

- 保管事業
 - ・ 大都市圏を中心に他社アセットも活用し集荷に注力
- リテール事業
 - ・ 一部事業所が閉鎖も、「NL+LiNK」等施策効果がカバー
- 3PL事業
 - ・ 冷食物流プラットフォームの拡大、外食顧客の出店拡大に伴い伸長
- 輸配送事業
 - ・ 2024年問題を機とした持続可能な物流ニーズを取り込み大きく伸長

[地域保管事業]

売上高・営業利益推移



トピックス

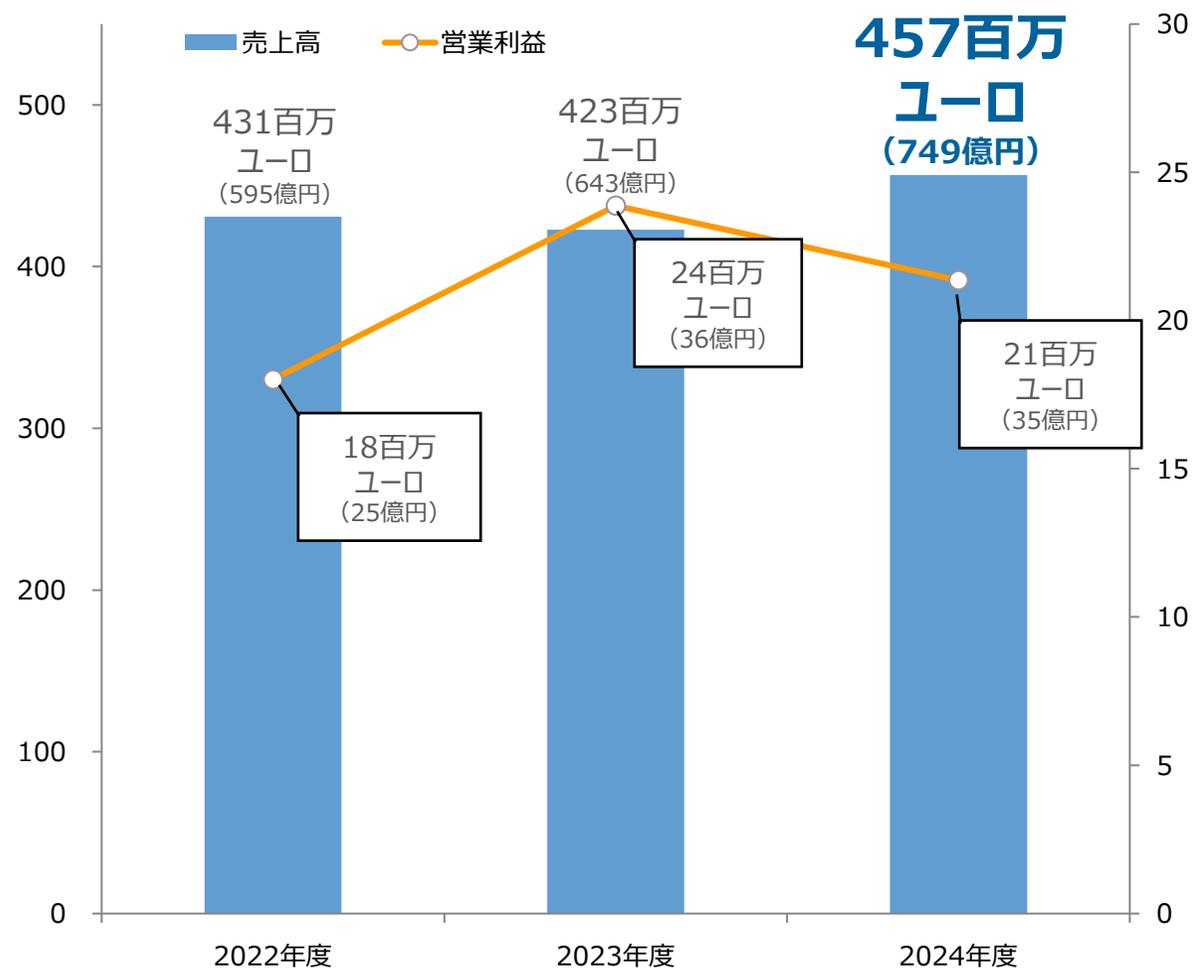
2024年問題による在庫拠点分散ニーズの高まりに対し保管・輸配送一体での集荷に取り組み増収増益

- 保管事業
 - 物価高による荷動き鈍化傾向は継続するも、神戸六甲DC安定稼働や顧客の在庫拠点分散ニーズの取込により伸長
- 輸配送事業
 - 保管顧客に対する保管・輸配送ワンストップサービス提案や新規顧客の獲得に注力し、大きく伸長

[欧州事業]

売上高・営業利益推移

単位：百万ユーロ



トピックス

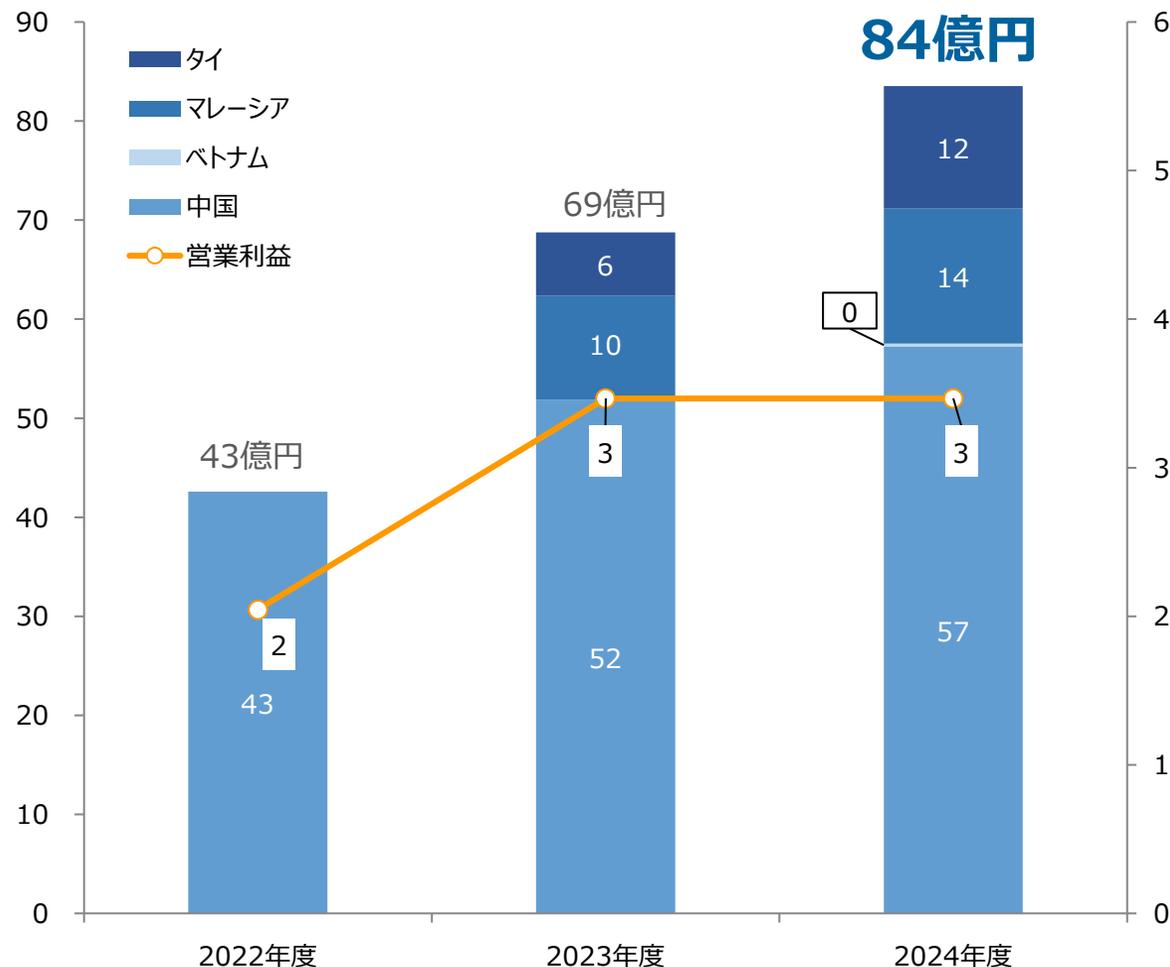
港湾ワンストップサービス拡大、ポーランドにおける小売り向け事業が伸長も、欧州CSRD開示対応コスト増加により、減益

- 保管事業
 - 拠点増設効果もありポーランド小売り向け事業の取扱いが順調に拡大
 - 堅調な保管・付加価値サービス需要を最大限取込
- 輸配送・通関事業
 - 量販・川上・川下領域におけるクロスボーダー輸送取扱いの伸長
 - 英国フォワーディング会社買収による売上高増大

[アジア事業]

売上高・営業利益推移

単位：億円



トピックス

ベトナム新設稼働影響をタイ・マレーシア子会社の連結化通期効果がカバーし利益は前年並み

- タイ**
 - ・ 顧客ニーズに応じた保管・運送ワンストップ業務の獲得を推進
- マレーシア**
 - ・ 保管需要を着実に取り込みつつ、オペレーションの見直しや生産性向上に注力
- ベトナム**
 - ・ 新設倉庫稼働後の業務安定化・集荷獲得を推進
- 中国**
 - ・ 顧客の出店拡大に対応した拠点運営を展開

※マレーシアNL COLD CHAIN NETWORK社は2023年2月、タイSCG Nichirei Logistics社は2023年6月に連結子会社化

- 次世代輸配送システム「SULS（サルス）」の整備
- 小売りベンダー様向け輸送サービス「NL+LiNK（エヌエルリンク）」の本格稼働



※参考資料(P38)参照

- ・ 北関東ゲートウェイ(GW)開設
- ・ 東北幹線路線の開通
⇒九州から東北までの整備完了
- ・ 約15本のトレーラーを追加し
累計約50本導入
- ・ 「SULS」取扱売上高実績約9億円



※参考資料(P39)参照

- ・ 東北地区においてサービスを本格的に開始
- ・ 東北物流みらい研究会へ参画しサービス紹介
- ・ 「NL+LiNK」取扱売上高実績約20億円

※東北物流みらい研究会
東北の小売業を中心に物流
企業も参画。トラックドライバー
2024年問題や脱炭素などの
物流課題を、企業横断型で
改善推進・課題解決すること
を目的として発足。



運べなくなるリスクの低減に向けた持続可能なサービスを提供

- 英国・・・グループ一貫サービスおよびM&Aを通じた機能強化による事業拡大
- ポーランド・・・新增設による庫腹の拡大および輸配送機能の強化

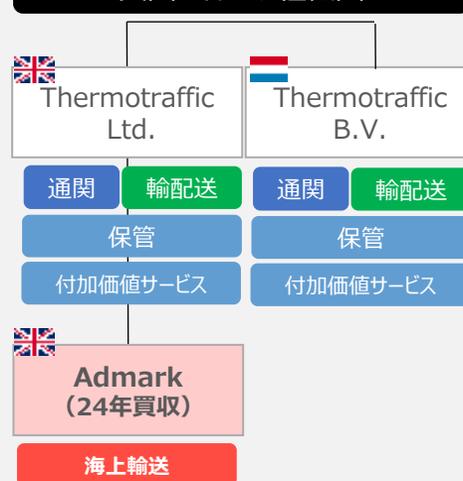
英国の事業拡大、欧州組織再編

- ・ 英国、オランダの組織再編、Thermotraficへの社名統一で一体運営を強化
- ・ 英国の各拠点にてVAS（付加価値サービス）を拡大、オランダ拠点へもVASを展開
- ・ Admark社買収による海上輸送機能の獲得で一貫サービスを拡大

英国・オランダ事業イメージ



英国・オランダ組織図



Thermotraficの英国・オランダ事業の売上は、2023年度比で15%伸長

ポーランドの保管、輸配送機能拡大

- ・ 小売り物流の拡大や保管需要の増加に応えるために、ズニン倉庫を増設
- ・ 首都ワルシャワ近郊の保管・輸配送拡大のため、ナビ・ダブルに倉庫を新設
- ・ 両拠点に太陽光パネルを設置。ナビ・ダブル新設では自動庫を採用

ポーランド事業イメージ



- ・ 新增設により、ポーランドの庫腹は1.8倍（約14万トン）に拡大
- ・ 拠点間の幹線輸送機能も強化

1. 企業概要
2. 2025年3月期 決算概要
- 3. 前中期経営計画（2022-2024）**
4. 新中期経営計画（2025-2027）
5. 参考資料

3. 前中期経営計画（2022-2024）

[業績結果と主な成果]

売上高

営業利益

単位：億円

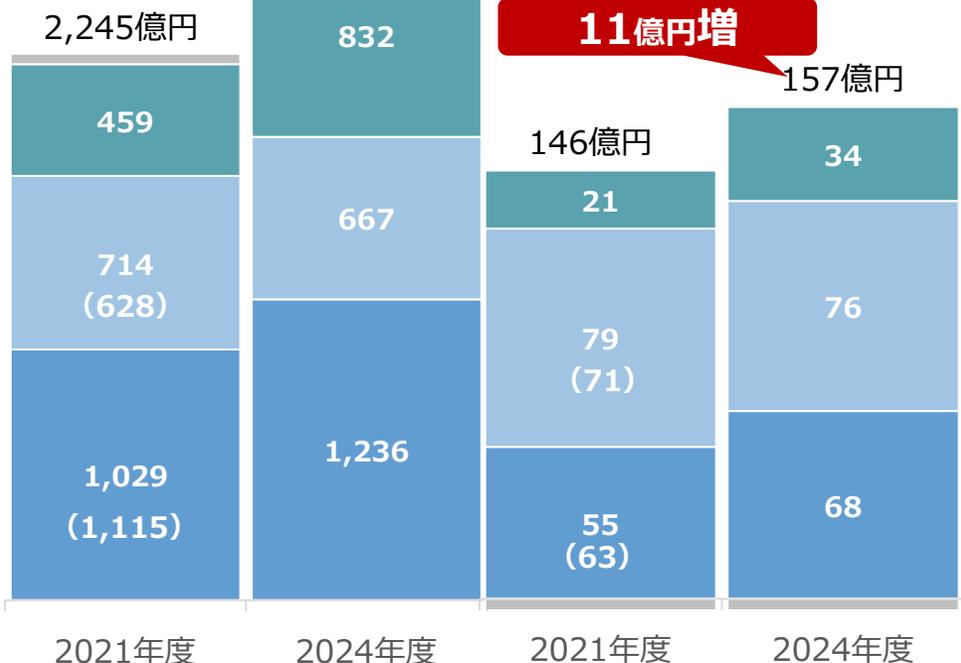
- 物流ネットワーク
- 地域保管
- 海外
- その他・共通

538億円増

2,783億円

11億円増

157億円



注：2023年度より地域保管事業の一部を物流ネットワーク事業に移管

(カッコ内数値は移管影響を反映した参考数値)

国内

トラックドライバー2024年問題への適切な対応

- ・持続可能な輸配送基盤の構築に向けた「SULS」の稼働
- ・東北エリアにおける小売りベンダー様向け輸送サービス「NL+LiNk」の本格稼働
- ・関東ネットワーク化による輸配送拠点整備、神戸六甲DC新設による庫腹増強
- ・トラックバス予約システム51拠点へ導入拡大

事業基盤の強化

- ・関東2拠点、関西1拠点のTCの設置稼働
- ・入荷系作業のデジタル化推進、R&Dセンターのテスト稼働
- ・エネルギー価格上昇と連動したサーチャージの導入

海外

売上・利益両面での成長

- ・オランダ・英国子会社の組織再編による体制強化、CSR対応に向けた準備
- ・新規M&Aによる英国のワンストップサービスの拡大
- ・タイ・マレーシアにおける連結子会社化を通じたASEAN事業の収益拡大
- ・ASEAN3カ国目となるベトナムへの新たな進出

経営基盤

企業体質の強化

- ・ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンに向けた女性活躍教育体制の整備
- ・リモートワーク環境（サテライトオフィス、リモートRPA環境）の整備
- ・環境負荷低減に向けた自然冷媒化および太陽光発電の拡大

1. 企業概要
2. 2025年3月期 決算概要
3. 前中期経営計画（2022-2024）
- 4. 新中期経営計画（2025-2027）**
5. 参考資料

[動画：1945年の日本冷蔵から始まり、現在に至るまでの歩み]



[基本方針]

現状認識

新中計

外部環境

社会環境

- ・生活様式の変化などによる冷食市場の拡大
- ・労働力不足の深刻化
- ・サステナビリティに対する関心の高まり

物流業界

- ・日本：運べなくなるリスクの拡大
- ・欧州：ワンストップサービス需要の高まり
- ・ASEAN：コールドチェーンニーズの高まり

自然環境

- ・気温上昇など気候変動の影響拡大
- ・脱炭素に向けた取組推進

強固な事業基盤の確立および成長実現に向けた3ヶ年

国内事業

持続可能な物流基盤のさらなる強化・拡大

海外事業

拠点投資およびシナジー発揮による飛躍的成長

経営基盤

サステナビリティ経営の推進

低温物流におけるNo1ソリューションカンパニーとしてのポジション確立を目指す

[ニチレイグループ新中期経営計画]

「Compass × Growth 2027」

[ロジグループ基本戦略]

国内事業

持続可能な物流基盤のさらなる強化・拡大

- 冷食物流における保管・輸配送能力の拡大
- 小売りベンダー様向けリテール物流網の整備
- データドリブン運営の実現に向けた技術検証の加速ならびにデジタル化率の向上

海外事業

拠点投資およびシナジー発揮による飛躍的成長

- 欧州での設備投資および一貫サービス拡充による事業規模拡大
- ASEANにおけるグループ連携の発揮および新たな進出機会の検討

経営基盤

サステナビリティ経営の推進

- 環境負荷低減に向けた計画的な自然冷媒化の推進および太陽光発電の拡大
- 事業成長に向けた多様な人財が活躍できるフィールドの醸成

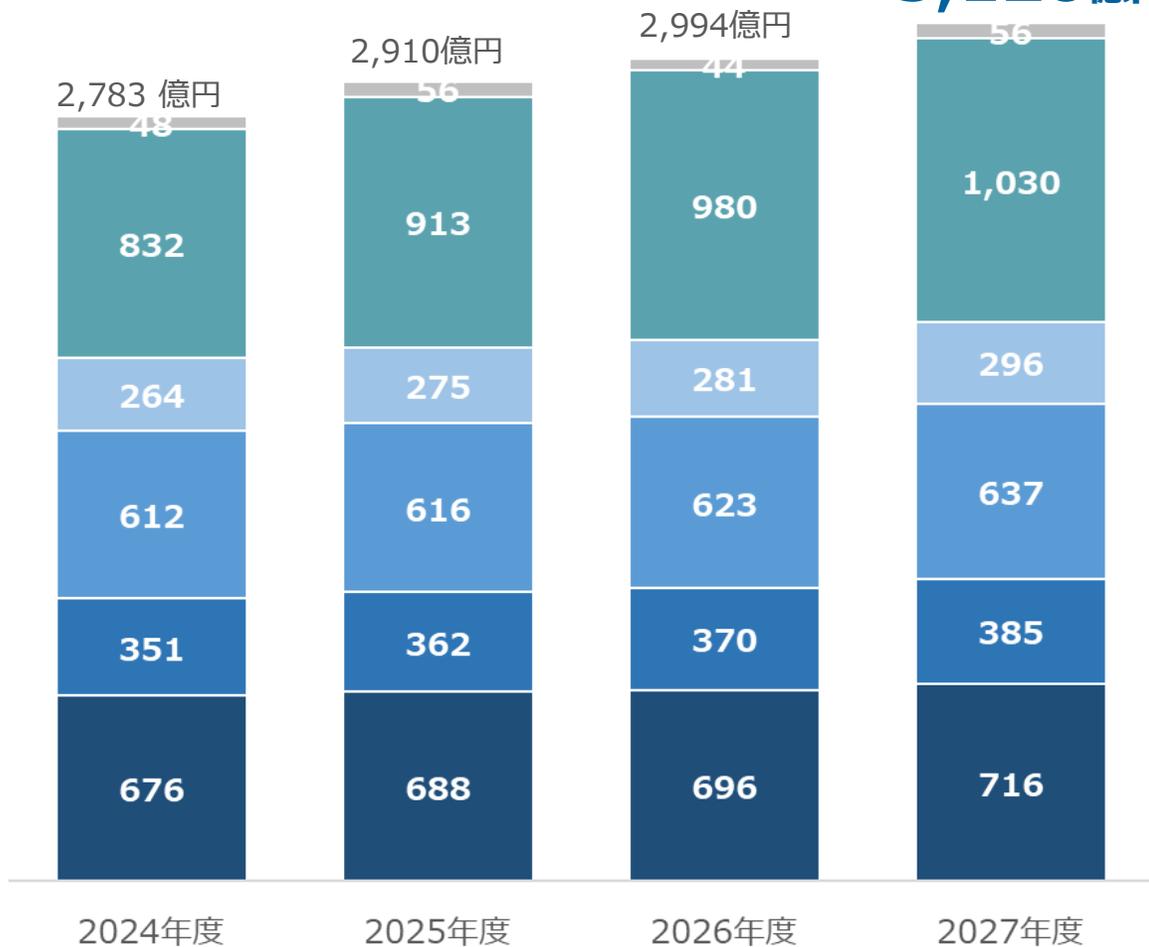
4. 新中期経営計画（2025-2027）

[経営目標値]

売上高

- 保管
- 輸配送
- リテール
- 3PL
- 海外
- 共通・その他

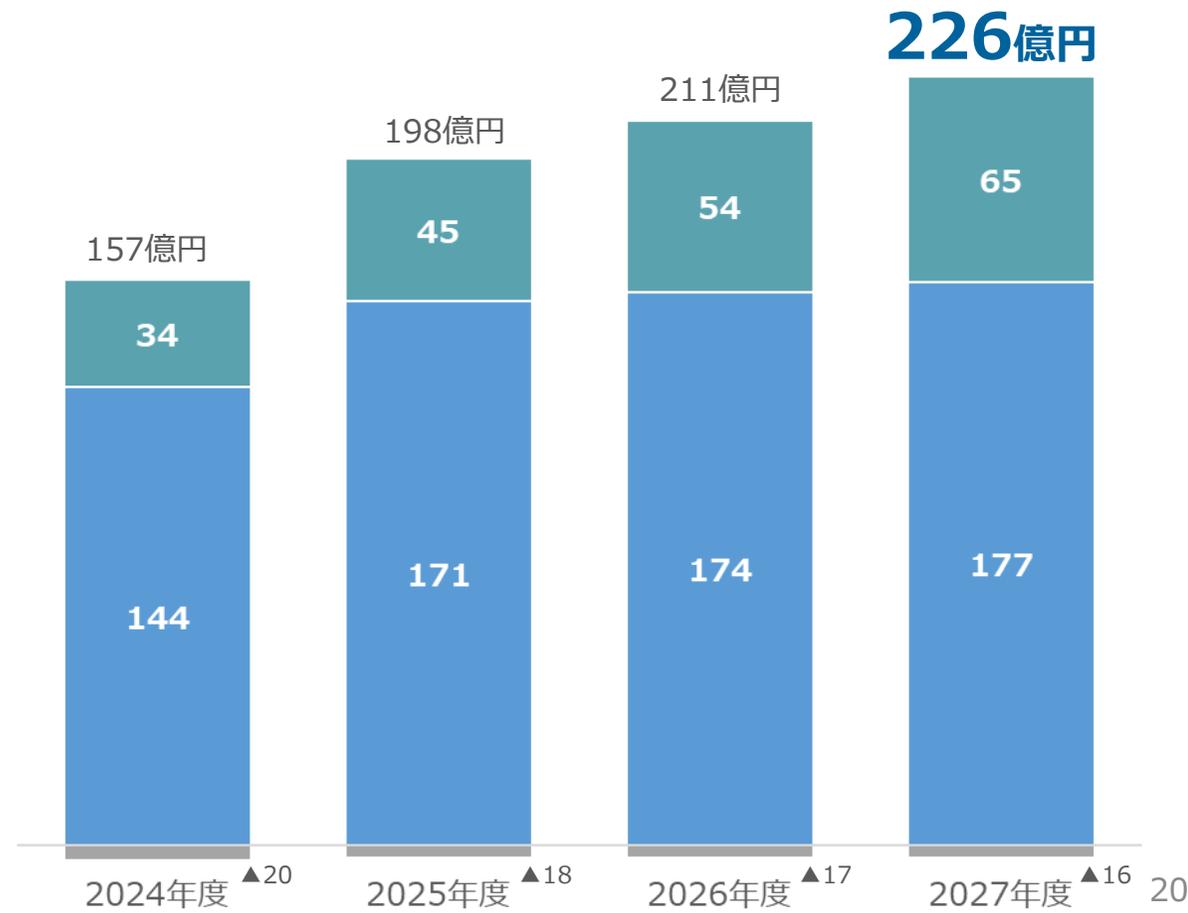
12%増
3,120億円



営業利益

- 国内事業
- 海外事業
- 共通・その他

43%増

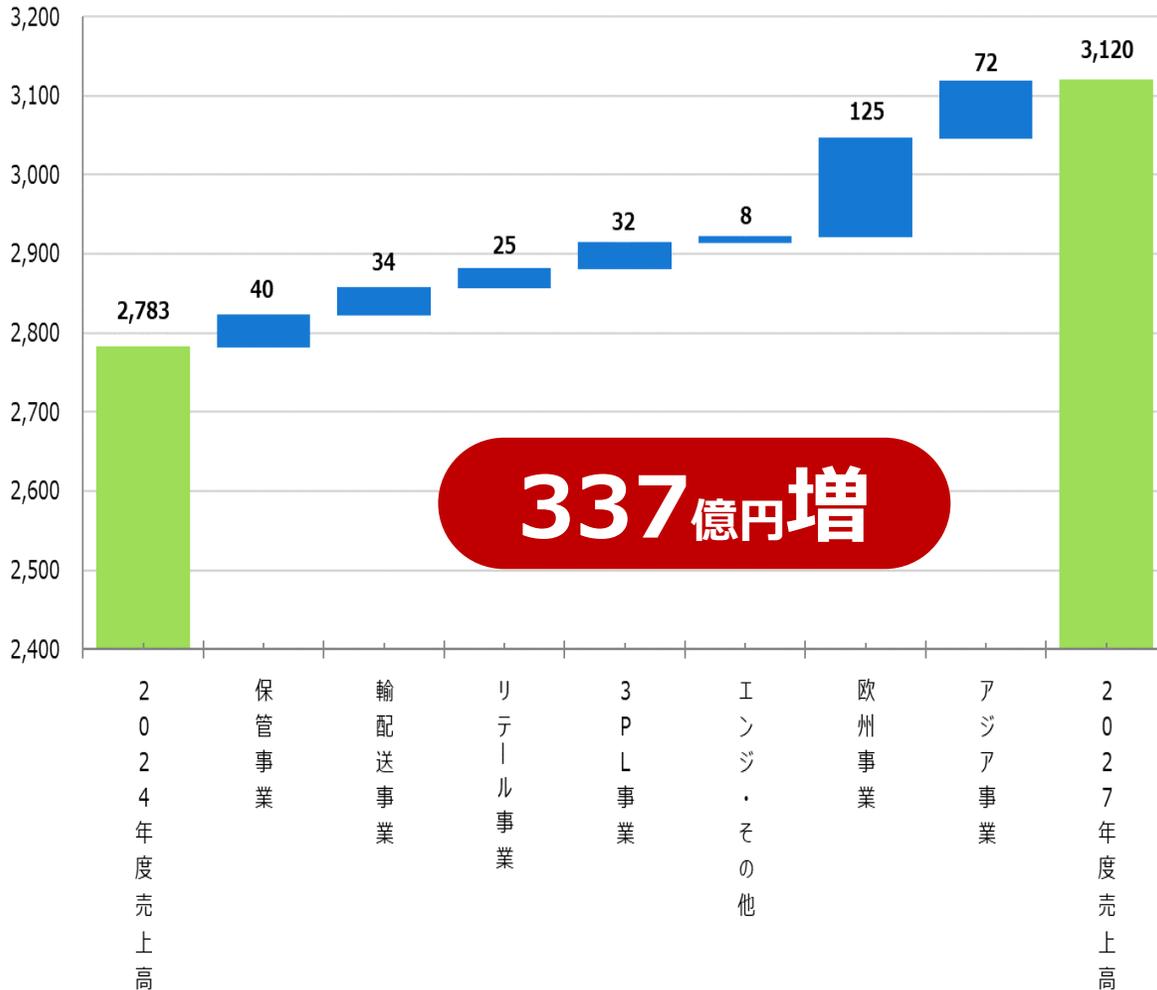


4. 新中期経営計画（2025-2027）

[経営目標値増減要因]

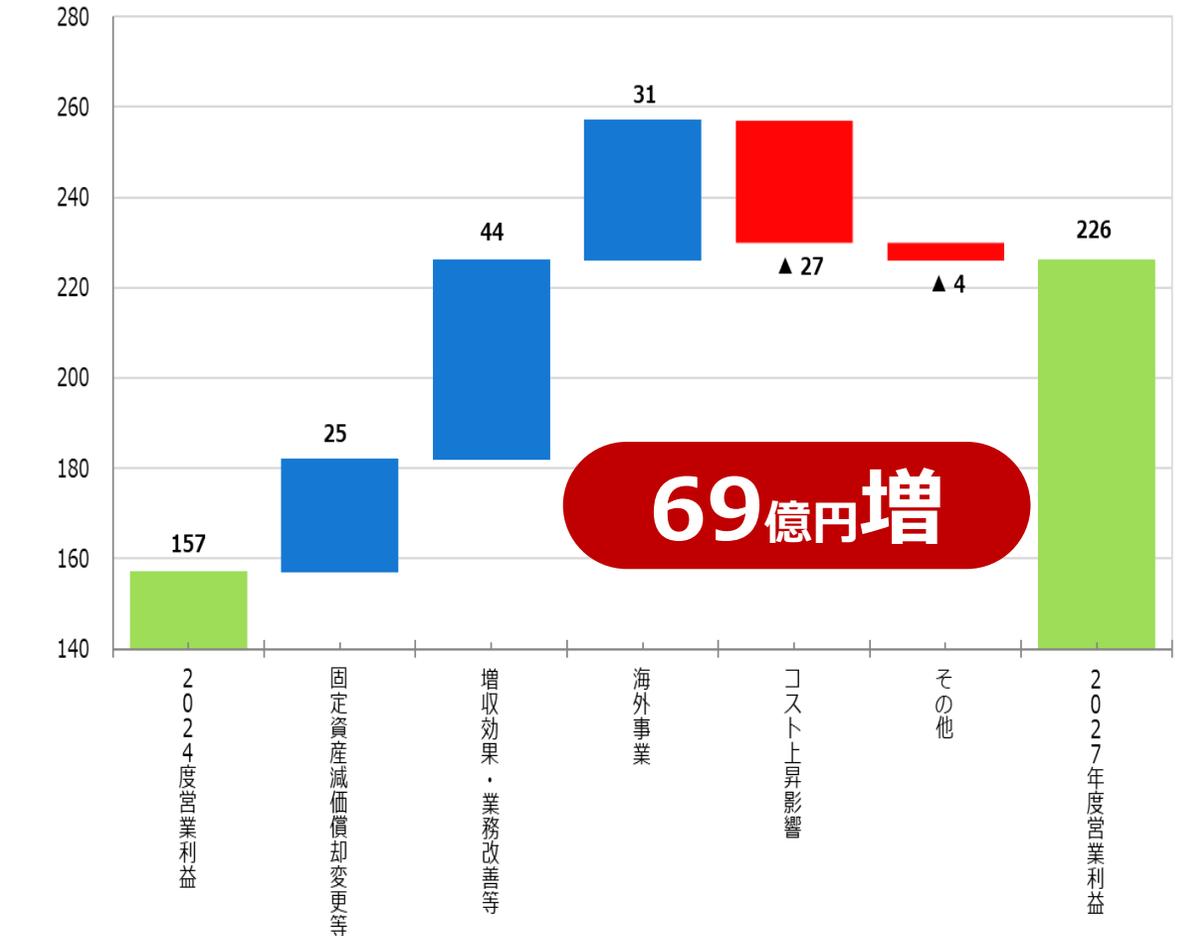
売上高

単位：億円



営業利益

単位：億円



4. 新中期経営計画（2025-2027）

[冷食物流における保管・輸配送能力の拡大]

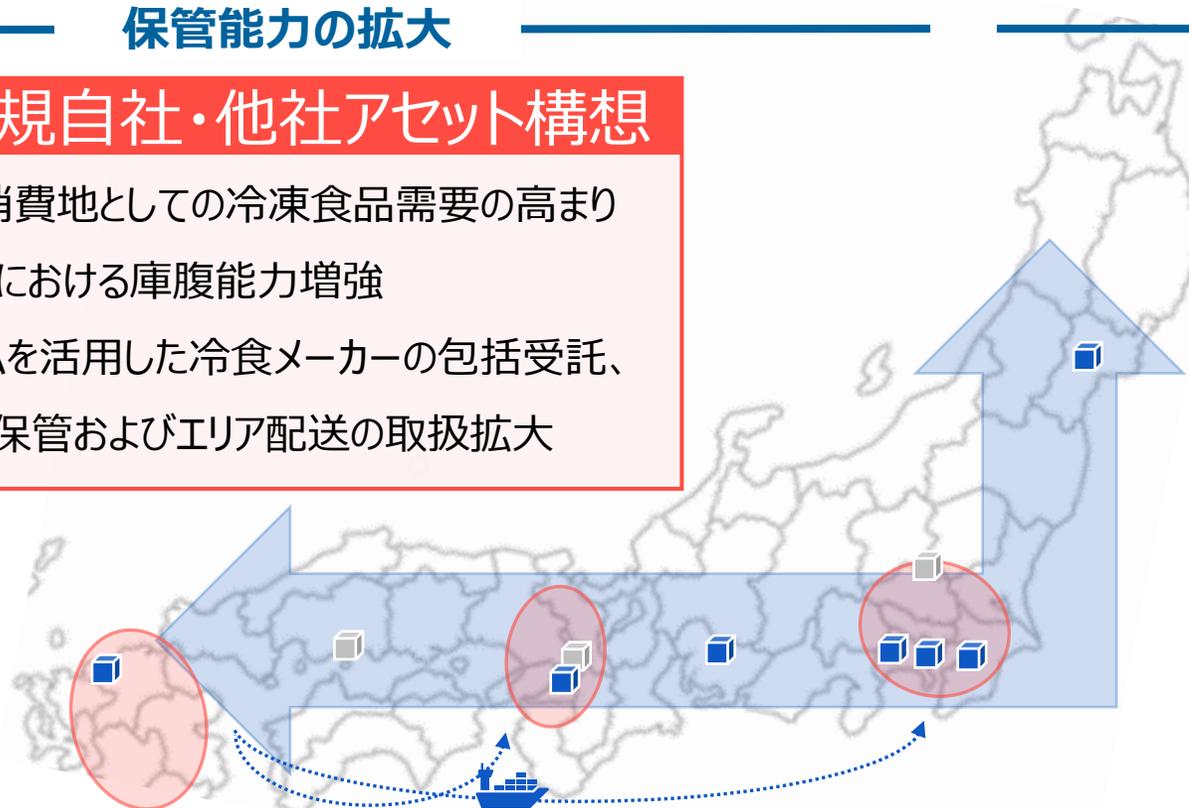
- 冷凍食品市場の拡大に応じた庫腹能力の増強
- 次世代輸配送システム「SULS」のさらなる強化

保管能力の拡大

大都市圏への新規自社・他社アセット構想

- ・ 大都市圏を中心とした消費地としての冷凍食品需要の高まり
- ・ 関東、関西、九州エリアにおける庫腹能力増強
- ・ 冷食物流プラットフォームを活用した冷食メーカーの包括受託、新規顧客の誘致による保管およびエリア配送の取扱拡大

- 当社拠点
- 他社拠点
- 新設構想エリア
- 🚢 フェリー



輸配送基盤の強化

規模拡大

- ・ トレーラー約50本の追加投資により、累計導入トレーラー数約100本に増強
- ・ 大都市圏での需要拡大に対応可能な全国幹線網の強化
- ・ 幅広い顧客ニーズに対する柔軟なサービス提供
「SULS」×フェリー、「SULS」×共同化

強固な冷食物流基盤と「SULS」による持続可能な物流サービスの提供

4. 新中期経営計画（2025-2027）

[小売りベンダー様向けリテール物流網の整備]

- 関東・西日本エリアにおける「NL+LiNK」の構築
- 東北エリアの「NL+LiNK」提供範囲の拡大

エリア展開の拡大

	関西・中四国エリア	関東エリア	東北エリア
当社運営拠点数	8拠点	11拠点	12拠点
取組み	「NL+LiNK」の本格稼働		当社運営外の小売り3社の拠点との連携拡大



「NL+LiNK」ネットワークの拡大による顧客への提供価値向上

4. 新中期経営計画（2025-2027）

[データドリブン運営の実現に向けた技術検証の加速ならびにデジタル化率の向上]

- 冷凍下における最先端自動化機器の検証ならびに省力化モデルの整備
- 徹底的な可視化に基づく業務プロセス標準化の推進

人と機械のベストミックスの構築

2025-2027年度

自動化
推進

R&Dセンターでの機器検証の加速、省力化モデルの整備と導入

先端技術機器の個別検証および拠点特性に応じた先行導入、自動化機器の連携検証および省力化モデルの整備

省力化モデルの実拠点への導入

省力化モデルの横展開

業務
プロセス
標準化

モデル拠点での業務プロセス標準化、主要拠点への水平展開

<モデル拠点> 先端技術の継続的な導入推進およびデータを活用した業務プロセスの標準化

モデル拠点運用をベースとした徹底的な業務の可視化

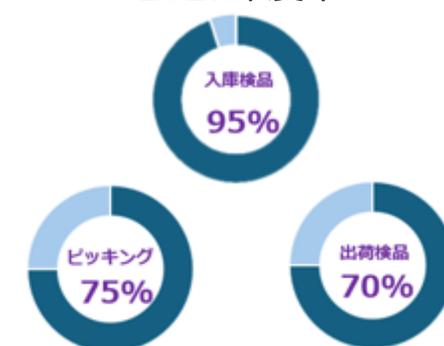
業務プロセス標準化の推進

庫内作業のデジタル化範囲の拡大

出荷系作業（ピッキング、出荷検品）におけるタブレットの利活用定着

BIツールを活用したデータの可視化およびアナリスト人財の育成

2027年度末



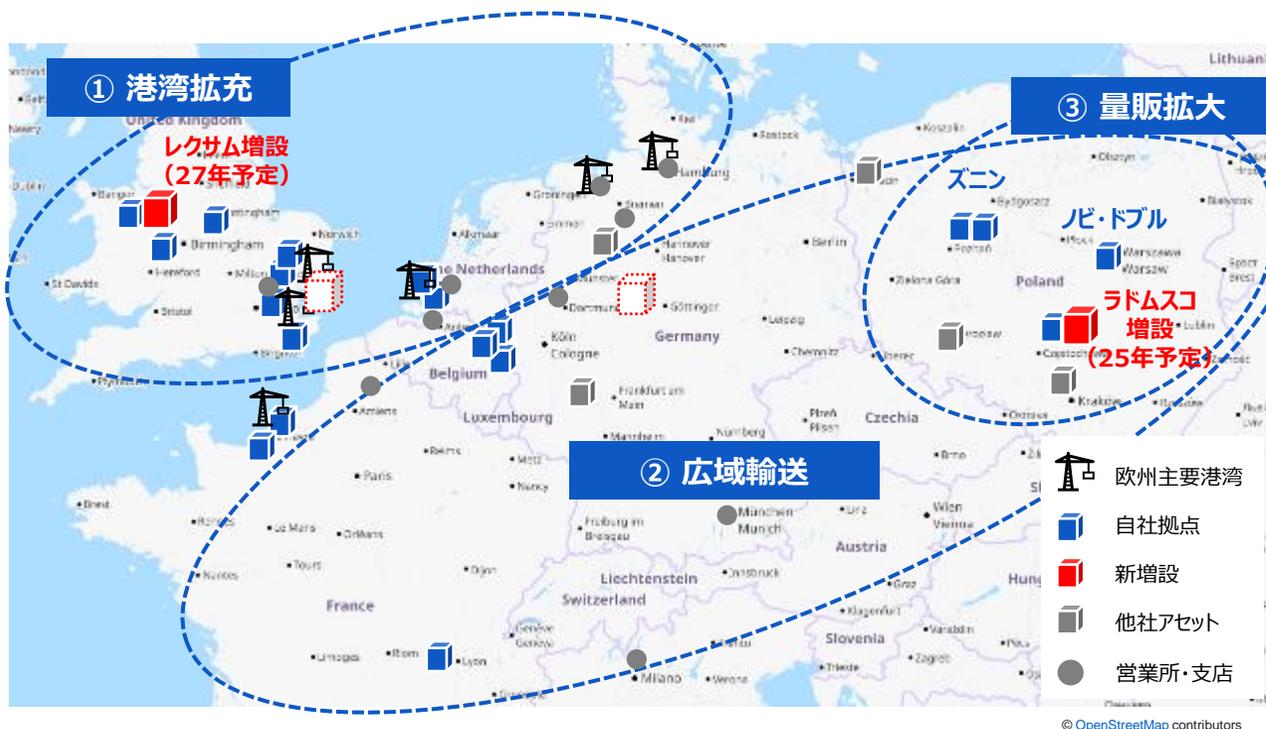
2030年度末の
全国主要拠点
における主な
作業工程
デジタル化率100%

データドリブン運営の実現に向けた自動化および標準化の推進

4. 新中期経営計画（2025-2027）

[欧州での設備投資および一貫サービス拡充による事業規模拡大]

- エリアに応じた拠点投資による機能強化（英国、ポーランド）
- グループ間連携による主力港湾事業および広域輸送事業のさらなる強化



	港湾ワンストップサービスのさらなる強化
① 港湾拡充	<ul style="list-style-type: none"> 英国のレクサム倉庫を増設し庫腹を増強（2027年稼働予定） グループ連携によりワンストップサービスを拡充 主要港湾でのさらなる拠点強化の検討
② 広域輸送	<ul style="list-style-type: none"> 量販物流を軸とした、広域輸送の事業拡大 グループ間の連携活用による収益強化
③ 量販拡大	<ul style="list-style-type: none"> ポーランド南部のラドムスコ倉庫の増設（2025年稼働予定） 量販物流を軸とし、ベンダー様など川上物流をさらに強化

さらなる成長に向けた設備投資およびグループ連携による欧州事業の拡大

4. 新中期経営計画（2025-2027）

[ASEANにおけるグループ連携の発揮および新たな進出機会の検討]

- 新設拠点の収益拡大（タイ・ベトナム）および新体制による連携強化（マレーシア）
- ASEAN域内における新たな機能拡大および事業機会の模索



既存事業の成長	タイ	バンコク北部新設稼働による首都圏基盤の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・バンコク北部ナワナコンにおける倉庫の新設（2025年3月竣工） ・保管、運送ワンストップサービスならびにVAS提供による収益拡大
	マレーシア	新体制における新たな事業成長 <ul style="list-style-type: none"> ・NL Litt Tatt の連結化（2025年7月予定）およびNLCCNとの連携強化
	ベトナム	新設冷蔵倉庫の本格稼働 <ul style="list-style-type: none"> ・ロンハウ工業団地にて倉庫を竣工（2024年7月） ・高品質な物流サービスの提供や営業強化による集荷の拡大
新事業領域	ネットワーク構築	域内ネットワーク構築に向けたクロスボーダー輸送ニーズの探索 <ul style="list-style-type: none"> ・ASEANグループの拠点機能活用とグループ連携の発揮
	ASEAN新規	新たな事業機会の模索 <ul style="list-style-type: none"> ・ASEAN事業拡大に向けたM&A機会の探索及び実行

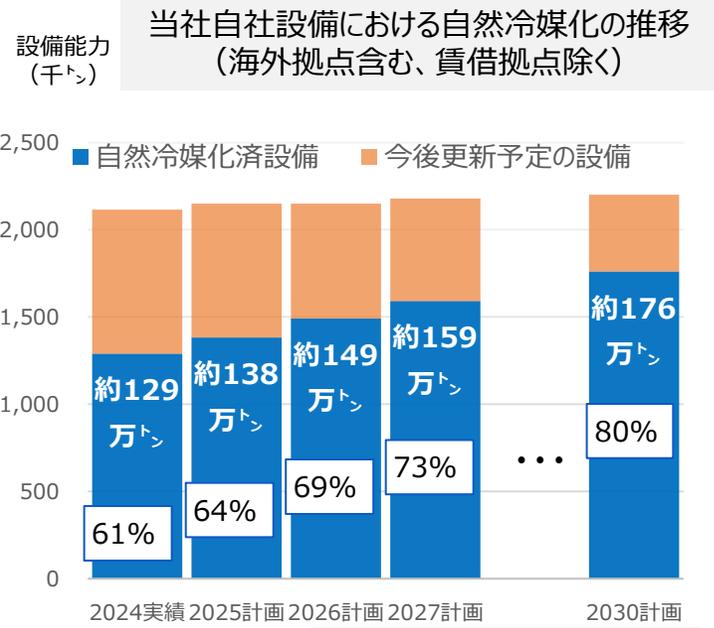
既出エリアにおける首都圏基盤の強化およびエリア・機能拡大を通じたさらなる成長

4. 新中期経営計画（2025-2027）

[サステナビリティ経営の推進]

- 環境負荷低減に向けた計画的な自然冷媒化および太陽光発電の拡大
- 事業成長に向けた多様な人財が活躍できるフィールドの醸成

自然冷媒化の推進



2030年度目標を
75%から80%に引き上げ

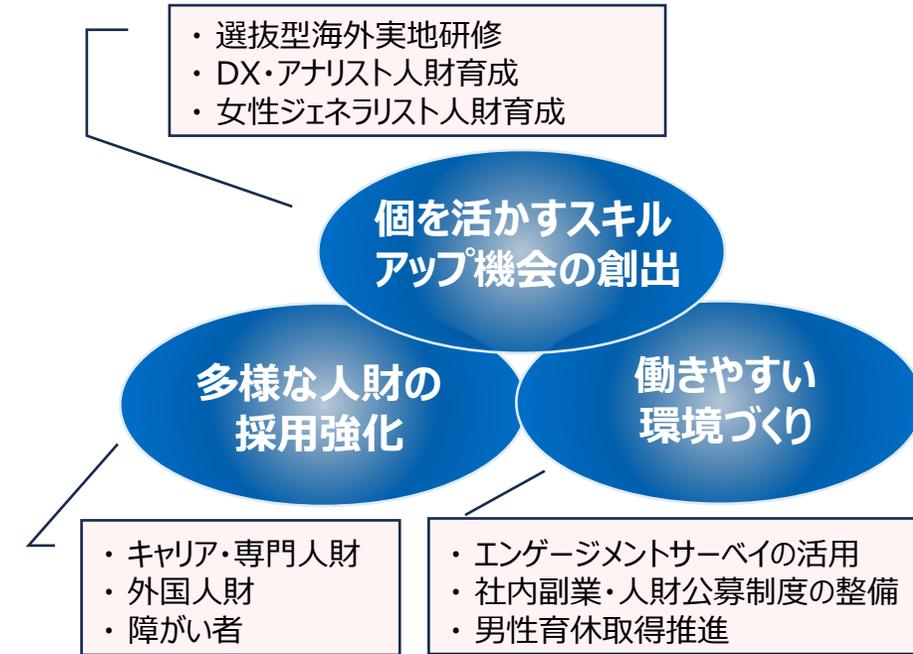
(参考情報)
業界における
自然冷媒導入率51.4%

※日本冷蔵倉庫協会 冷媒実態調査集計表
2024年11月資料引用

太陽光発電の拡大



多様な人財の活躍



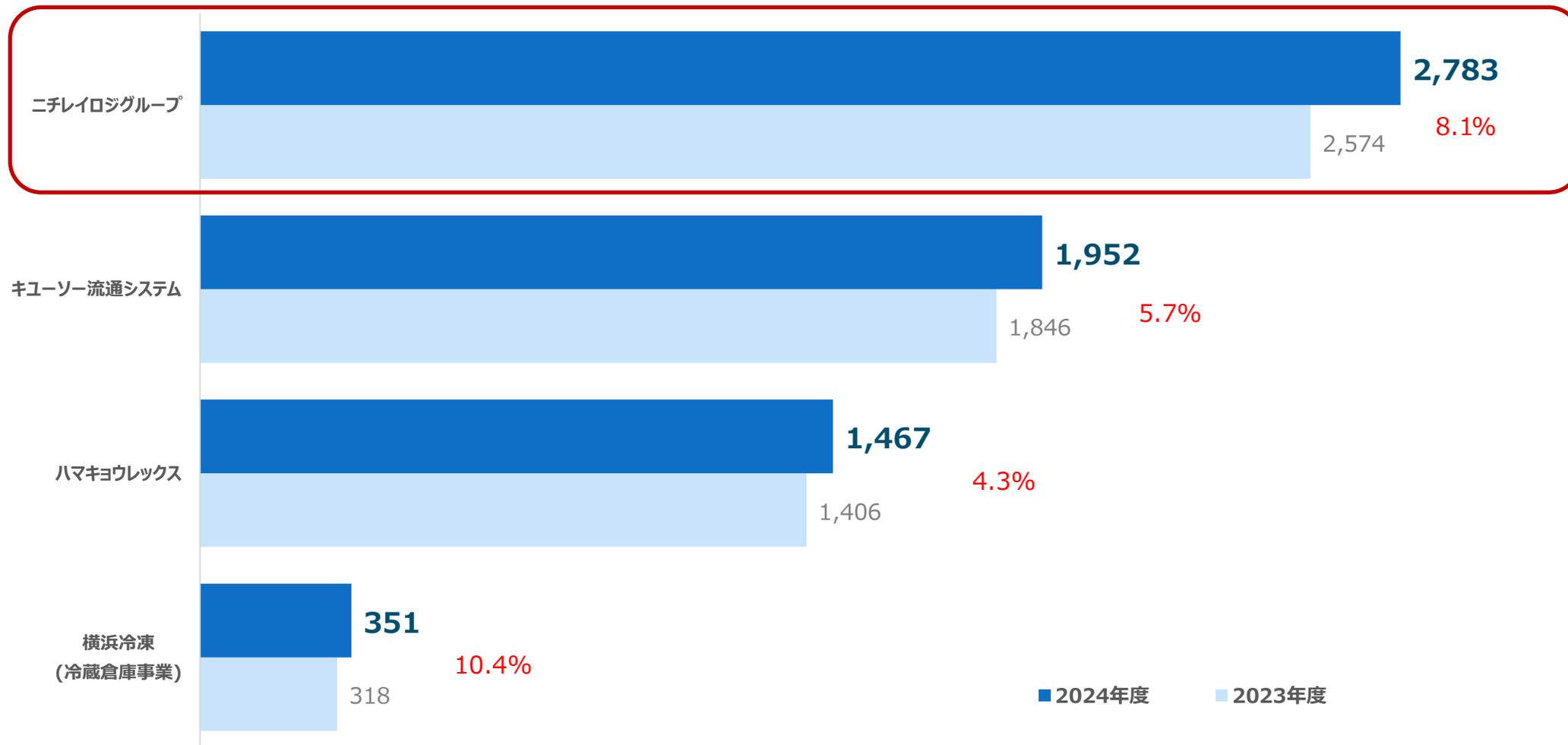
持続可能な経営基盤の構築を通じた社会的価値の向上

1. 企業概要
2. 2025年3月期 決算概要
3. 前中期経営計画（2022-2024）
4. 新中期経営計画（2025-2027）
5. 参考資料

[ポジション①]

主要低温物流企業の売上高

単位：億円

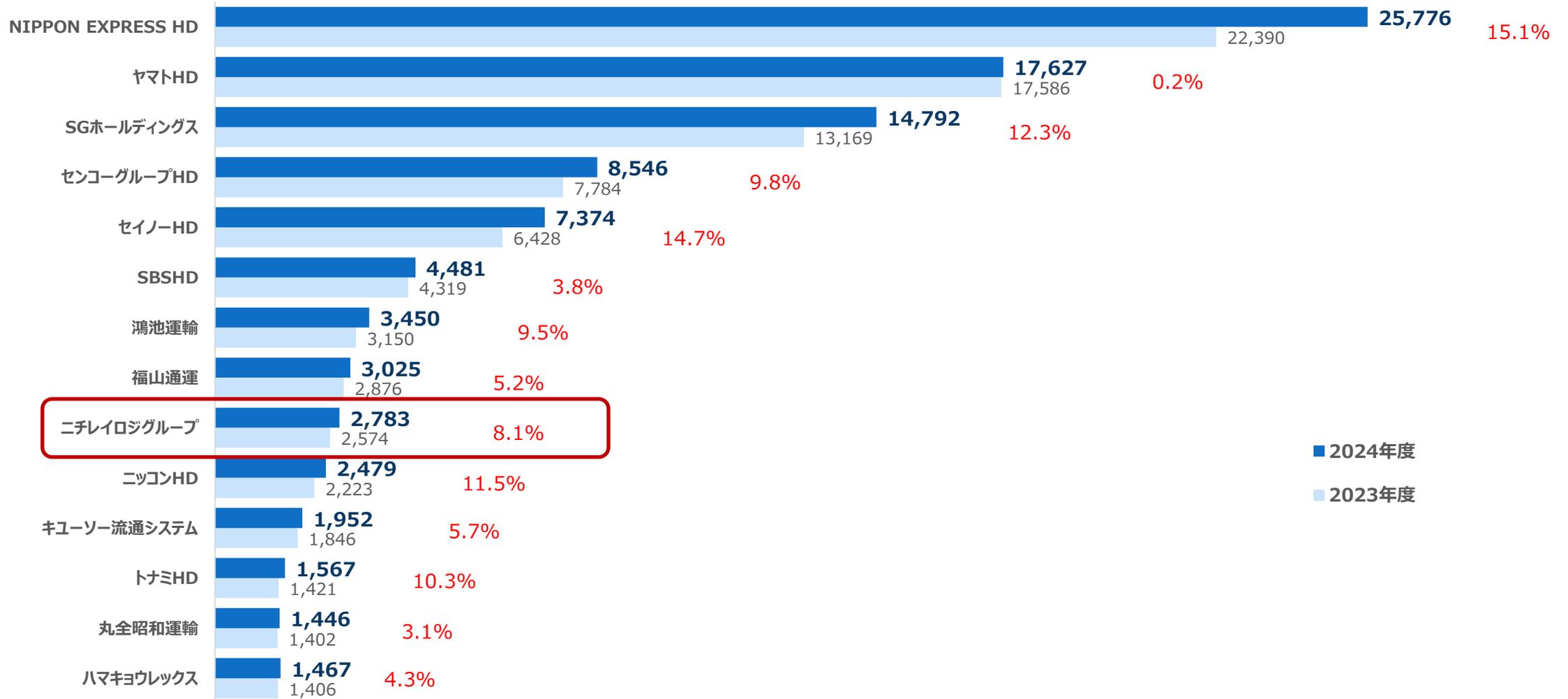


※低温物流を主とする物流会社を選定
 ※各社決算短信（2025年5月16日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。

[ポジション②]

主要物流企業（陸運）の売上高

単位：億円



※トラックによる輸送を主とする物流会社を選定

※各社決算短信（2025年5月16日時点の最新版）における年度実績数値を基に作成。決算未発表会社の業績については空白。

[ポジション③]

冷蔵倉庫設備能力国内ランキング(推計)

順位	会社名	設備能力(ト)	全国シェア
1	ニチレイロジグループ	1,566,652	8.4%
2	ヨコレイグループ	977,826	5.3%
3	マルハニチログループ	648,476	3.5%
4	C&Fロジホールディングス	588,016	3.2%
5	東洋水産グループ	580,404	3.1%
6	ニッスイグループ	433,339	2.3%
7	(株)松岡	362,717	2.0%
8	(株)ランテック	319,414	1.7%
9	(株)二葉	295,997	1.6%
10	(株)キューソー流通システム	281,658	1.5%
11	鴻池運輸(株)	279,578	1.5%
12	日本物流センター(株)	239,631	1.3%
13	五十嵐冷蔵(株)	235,509	1.3%
14	(株)ハウスイ	215,179	1.2%
15	第一倉庫冷蔵(株)	205,699	1.1%
16	(株)ムロオ	179,354	1.0%
17	(株)兵食	175,973	1.0%
18	藤林グループ	150,620	0.8%
19	山手冷蔵(株)	142,128	0.8%
20	福岡運輸(株)	140,152	0.8%

※出所：日本冷蔵倉庫協会「冷蔵倉庫の諸統計 2023年版」をもとに加工

冷蔵倉庫設備能力世界ランキング

No	Company	Capacity(m3)
1	Lineage	84,412,381
2	Americold Logistics	40,917,776
3	NewCold Coöperatief U.A.	12,985,216
4	United States Cold Storage, Inc.	11,880,313
5	Nichirei	6,635,205
6	Constellation Cold Logistics Sarl	5,438,259
7	Emergent Cold Latin America	5,070,947
8	FreezPak Logistics	4,011,611
9	Frialsa Frigoríficos S.A. De C.V.	3,965,493
10	Interstate Warehousing, Inc.	3,740,660
11	Cube Cold Europe NL HoldCo B.V.	3,017,607
12	SuperFrio Logística Frigorificada	2,913,995
13	Vertical Cold Storage	2,758,856
14	Magnavale Ltd	2,489,305
15	Conestoga Cold Storage	2,469,575
16	Agile Cold Storage LLC	2,210,124
17	Arcadia Cold Storage & Logistics	2,132,710
18	Congebec Inc.	1,863,245
19	Cold-Link Logistics	1,761,305
20	Comfrio Inteligência em Soluções Logísticas S.A.	1,568,623

※出所：GCCA「Global Top25 List」2025年4月資料をもとに加工

[損益計算書（連結）]

単位：億円、端数四捨五入、（ ）内利益率

	前期		当期		前期比
売上高	2,574		2,783		+8.1%
営業利益	158	(6.2%)	157	(5.7%)	-0.5%
経常利益	154	(6.0%)	152	(5.5%)	-1.3%
税引前利益	154	(6.0%)	142	(5.1%)	-7.8%
当期純利益	101	(3.9%)	92	(3.3%)	-8.1%

※利益率は1円単位で計算

[損益計算書（セグメント別）]

(単位：百万円)

		前期	当期	前期比	増減率
売上高	物流ネットワーク	118,591	123,568	4,977	+4.2%
	地域保管	63,814	66,717	2,903	+4.5%
	海外	71,137	83,203	12,066	+17.0%
	その他・共通	3,813	4,783	970	+25.4%
	合計	257,355	278,273	20,917	+8.1%
営業利益	物流ネットワーク	6,473	6,775	301	+4.7%
	地域保管	7,442	7,619	177	+2.4%
	海外	3,555	3,368	▲ 187	-5.3%
	その他・共通	▲ 1,638	▲ 2,013	▲ 374	-
	合計	15,833	15,749	▲ 83	-0.5%

[財務諸表分析]

		前期末	当期末
総資産	百万円	217,338	231,146
負債	百万円	106,079	109,900
うち、有利子負債	百万円	58,716	62,229
うち、有利子負債（リース債務除く）	百万円	45,035	49,055
純資産	百万円	111,259	121,245
D/E比率	倍	0.5	0.5
D/E比率（リース債務除く）	倍	0.4	0.4
自己資本比率	%	49.9%	51.1%
売上高	百万円	257,355	278,273
当期純利益	百万円	10,057	9,247
自己資本利益率（ROE）	%	9.3%	7.8%
総資産利益率（ROA）	%	4.6%	4.0%
総資産回転率	倍	1.2	1.2

注：D/E 比率の算出方法：有利子負債÷純資産（少数株主持分を除く）

5. 参考資料

[設備投資の状況]

〈設備投資等〉

(単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画	当期比
21,448	22,748	+1,300	23,310	+562

〈減価償却費〉

(単位：百万円)

前期	当期	前期比	次期計画	当期比
12,135	12,826	+691	11,658	△1,168

〈主な設備投資〉

(単位：百万円)

完了年月	会社名	所在地	設備の内容	設備投資 総額	当期計上額	完成後の 増加能力
	事業所名				(既計上額)	
2024年 5月	Nichirei TBA Logistics Vietnam LLC	ベトナム ロンアン省	物流センターの 新設	2,474	1,016 (2,474)	設備能力 42,985 t
2024年 10月	Frigo Logistics Sp.z o.o.	ポーランド ズニン市	物流センターの 増設	2,548	2,445 (2,548)	設備能力 20,104 t
2025年 3月	SCG Nichirei Logistics Co.,Ltd.	タイ パトゥムターニー県	物流センターの 新設	※3,839	1,503	設備能力 35,100 t
2025年 5月 (予定)	Frigo Logistics Sp.z o.o.	ポーランド ノヴィ・ドゥヴル市	物流センターの 新設	※5,712	3,035 (4,570)	設備能力 42,552 t

注1： 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

注2： 「完了年月 (予定)」は設備引き渡し完了予定の日付を記載しております。

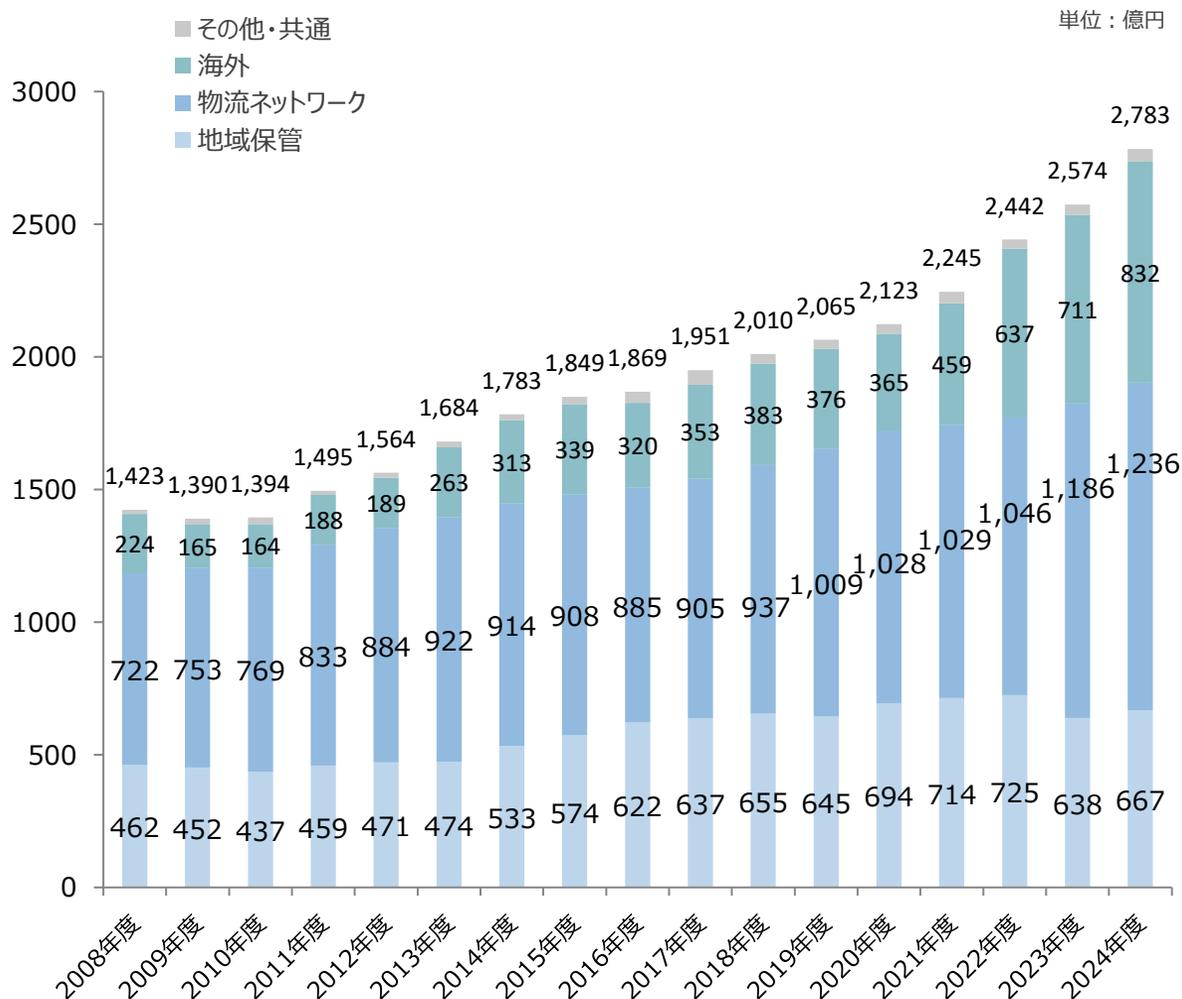
注3： Frigo Logistics Sp.z o.o.の2024年10月完了の増設工事は2024年7月に稼働開始、
2025年5月完了予定の新設工事は2024年12月に稼働開始しております。

注4： 「設備投資総額」の※は、計画数値であります。

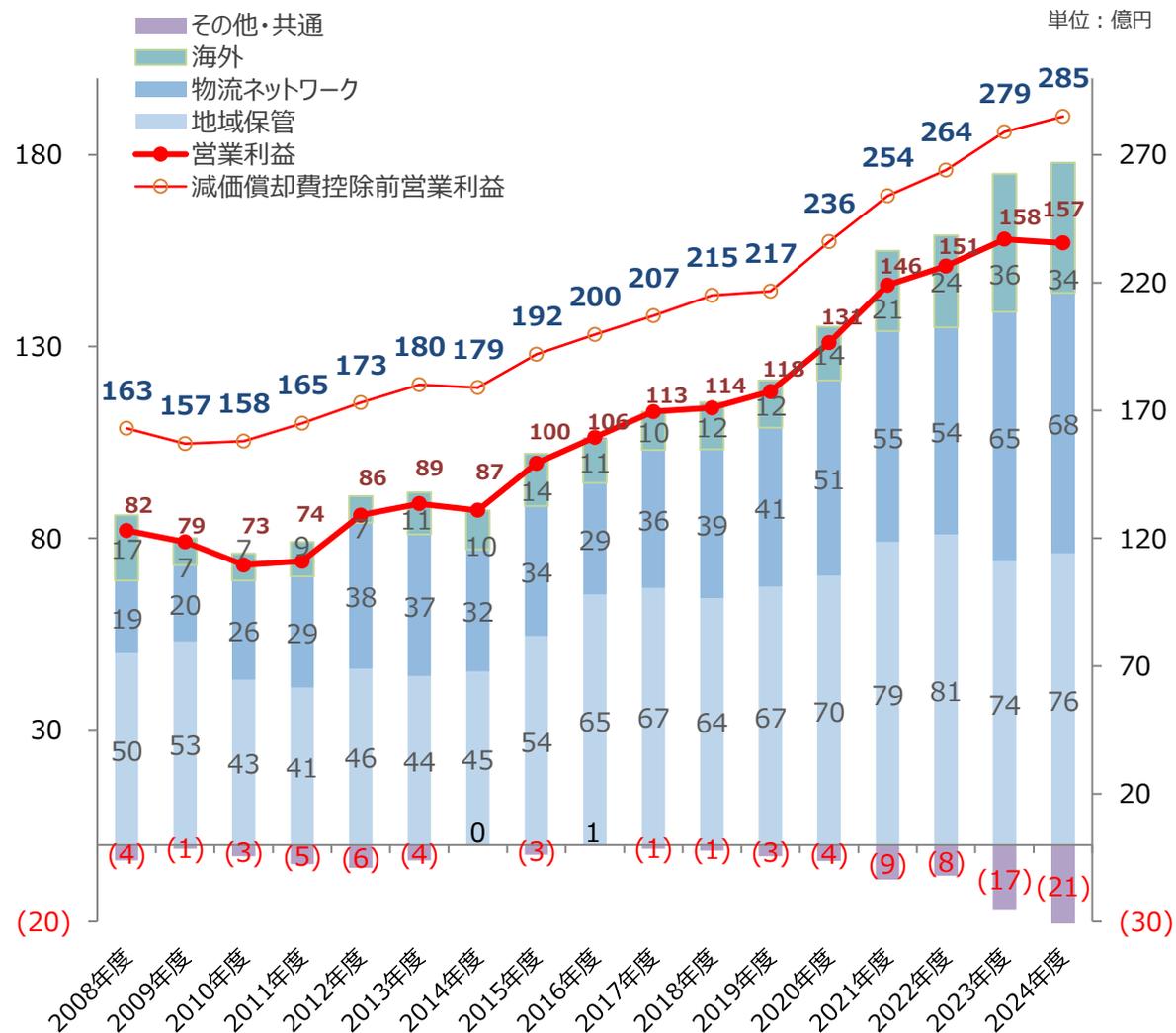
5. 参考資料

[売上高・営業利益推移]

売上高推移



営業利益推移



[SULS]

➤ 自社トレーラーを活用した持続可能な次世代輸配送システム「SULS（サルス）」



コンセプト

ニチレイロジグループの強みを掛け合わせ、「3つのS」を生み出し、社会やお客様に「3つのU」をご提供



国内No.1の
食品低温物流ネットワーク

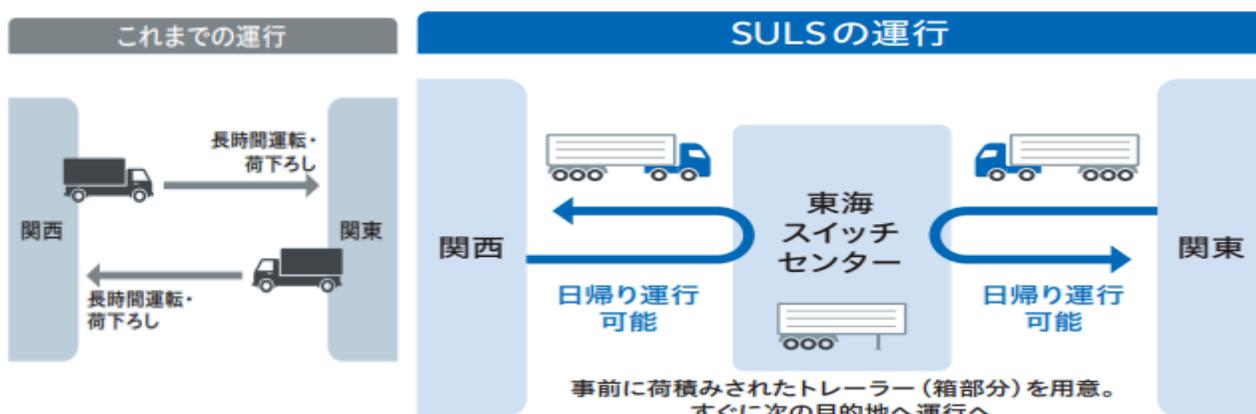


国内最大規模の
ベースカーゴ

全国約80拠点の自営DC

強固な輸配送ネットワーク
(約100社の協力パートナー)

概要・イメージ



荷台部分の切り離しが可能な低温トレーラーを活用することで中継折り返し運送を実現

長距離輸送の抑制

荷積み・荷下ろしなどの作業をトラックドライバーではなくロジグループの拠点側で行うこと

トラックドライバーの運転業務への集中化推進

トレーラーをロジグループで保有し、中継拠点に常に荷積みされた状態のトレーラー（箱部分）を用意しておくことで、車両到着後すぐに次の目的地への運行に移ることができる

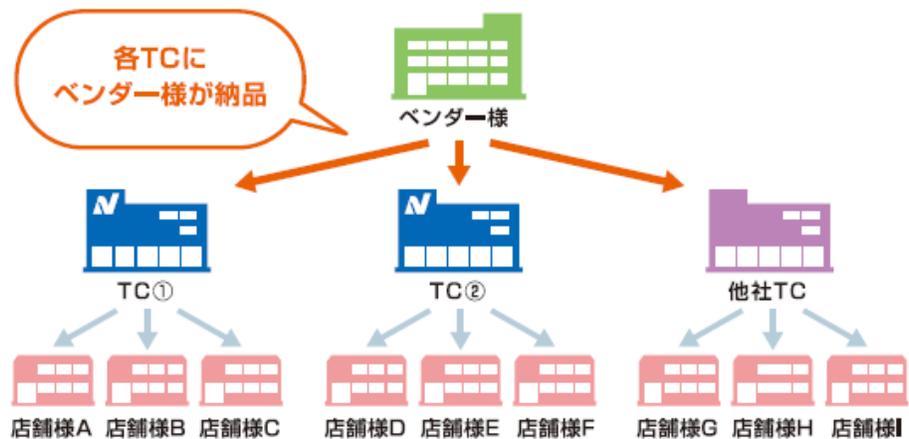
物流拠点での手待ち時間の削減

[NL+LiNK]

➤ 当社リテール事業のTC拠点をつなぐベンダー様向け拠点間輸送サービス「NL+LiNK」

導入前

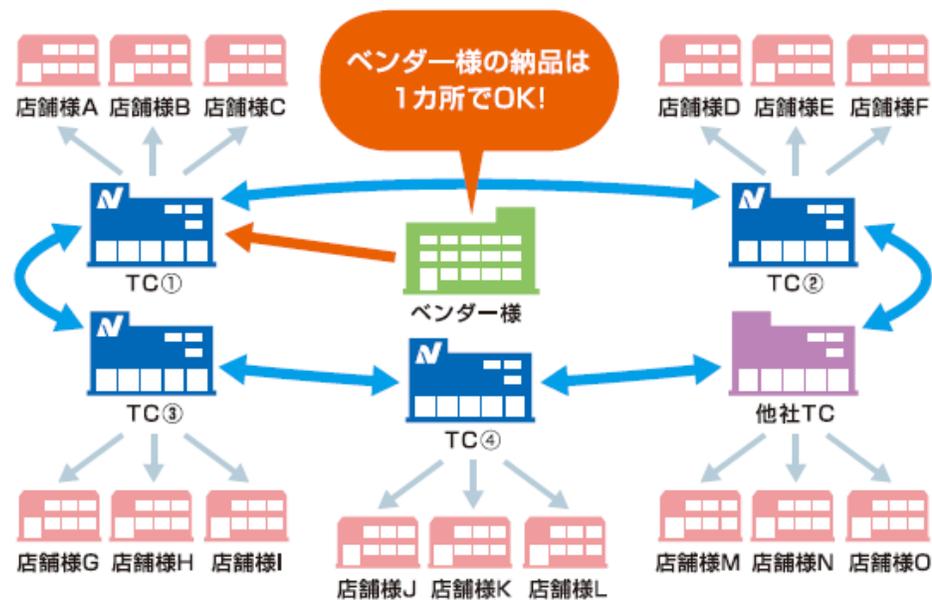
ベンダー様に各TCに必要な商品を納品いただき、
小売店様へとニチレイロジグループが配送していました。
ニチレイロジグループが小売店様へ配送



導入後

ベンダー様は1カ所のTCに納品いただければ
その他のTCへはニチレイロジグループが輸送。そこから小売店様へ配送いたします。
今までは納品の都合で商品をお届けできなかった地域での展開を
視野に入れるなど、ビジネスチャンスの拡大にも寄与することができます。

ニチレイロジグループがTC/小売店様へ配送



この説明資料に記載されている当グループの現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。

将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られた当グループ経営者の判断に基づいております。

実際の業績は、経済情勢および業界環境、為替レート変動、品質保証体制確立の実現性、新サービスの実現性、成長戦略とローコスト構造の実現性、当グループと他社のアライアンス効果の実現性、偶発事象の結果、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響など、リスクや不確実な要素を含んでおりますので、業績見通しのみに全面的に依拠して判断されることは、お控えいただきますようお願いします。

【お問合せ先】

株式会社ニチレイロジグループ本社 経営企画部
N1040X003@nichirei.co.jp

株式会社ニチレイ 広報IR部 広報グループ
N1000X036@nichirei.co.jp

株式会社ニチレイロジグループ本社 ホームページ
<https://www.nichirei-logi.co.jp/index.html>

